

めしもりやま 高齢者 4 人で長野県飯盛山(1643m)に

2022年9月14日(水)快晴

前泊した“リッツイン清里”を 8:20 出発。タクシーで登山口の平沢上水道施設下の車道急カーブの場所に。

車止めのチェーンをくぐって、8:40登山開始、緩やかな林道をゆっくりと歩き出す。

“自前の膝・脚”での最後の登山

参加者は高齢者 4 人(男 2 女 2)。一週間後に両膝人工関節置換手術を控えている私にとっては“自前の膝・脚”で登る最後の山行なのだ。同行していただいた 3 人の方々に改めて感謝。

9:10 平沢コース登山道と合流、東屋に到着。ハイキングマップのコースタイムで歩いたのだから立派なものだ。

ゲンノショウコは白花ばかり

東屋の周囲はちょっとした広場になっており、アザミ、ゲンノショウコなどが咲いている。前号で触れた「ゲンノショウコの源平合戦」にてらすと、ここは「赤花」地域になる筈だが、見るのは白花ばかり。アザミで蝶が吸蜜している。



頑丈なフェンスは牛用か

一服後、頑丈なフェンス

の入り口を抜けて頂上への道にはいる。登ってきた登山道の傍らにも、切れ目なくフェンスが張ってあった。鹿やイノシシ用なのか、それにしても高く、頑丈なフェンスだな、と話しながら来たが、この「カギ型の入り口」を見て「牛用なのだ」と思いだした。この高原は放牧場だったのだ。

そういえば、もう 40 年以上

前になるが、飯盛山に初めて登ったのは、野辺山方面からで、その時も放牧場の鉄条網越しに山頂を眺めたのだった。

花と眺望を楽しみながらゆっくりと登る

幅広く、緩やかな登山道を登る。路傍にアサマフウロ、ワレモコウ、足元にはセンブリ、ヤマハハコが花を見せている。

やがて右手前方に飯盛山の山頂が見えだした。3 人余の登山者の姿が紺碧の空にシルエット風に見える。

マツムシソウの花が現れ始め、まもなく獅子岩からのコースと合流。草原状の稜線にはマツムシソウがたくさん咲いている。

←アサマフウロ



↑飯盛山山頂で



↑吸蜜するスジボソヤマキチョウ





↑マツムシソウ 自らの脚で登ってきた者のみが味わえる喜びだ。頂で出逢った79歳の女性いわく「登山路は花の季節にはたくさん花々で埋まる」とのこと。

ゆっくり下って無事に下山

展望と山座同定を楽しみ、記念写真を撮って 10:30 下山開始。11:35 あずま屋着。宿に電話をいれ、ご主人に迎

色んな花の咲く山頂への道

山頂へと続く尾根には傾斜のある広い登山道が設けられており、左右には色とりどりの花が咲いている。トリカブト、ウメバチソウ、ヤマラッキョウ、アキノキリンソウなどの花を楽しみながら歩き、10:10 飯盛山山頂着。標高1643m。心地よい風が吹き抜けている。



コロナ禍でのストレスも吹き飛ばして

↑センブリ

快晴のもと、360度の眺望。北西に八ヶ岳連峰が間近に迫り、東に金峰(きんぷ)山等、南西には南アルプスの山塊が大きく広がっている。白く輝くのは甲斐駒ヶ岳、その左には3000m超の稜線を誇る白根三山の諸峰、そして遠くに富士山が見える。



えを頼む。ご主人はこちら ↑ウメバチソウ

の土地には不案内とのこと。

緩やかな林道をゆっくりと歩く。途中から先行を頼んだ女性の一人が足早に下ってゆく。

12:15 登山口着。先行の女性と宿のご主人そして宿の車とが待っていた。10分ほどで清里駅着。

食べたかったザルソバ

ここで女性から「折角だからソバを食べたい」との要望。それに応えて、小淵沢駅で途中下車して駅前のそば店と思ったが、お目当ての店はシャッターが下りていて残念。



↑アキノキリンソウ 駅構内の立ち食い店でそれぞれ好みのそばを食べるが、素朴なザルソバを食べたかったなあ。

←ツリフネソウ 平沢コースにも、清里のペンション近くにもたくさん咲いていた

↓清里駅付近からの飯盛山

